

## 主催者代表挨拶（文部科学副大臣 義家弘介）

本日は、お忙しい中、「第13回国際教育協力日本フォーラム」にご参加いただき、御礼申し上げます。文部科学省を代表して、皆様にご挨拶を申し上げます。

本フォーラムは、外務省、広島大学、筑波大学、文部科学省が主催者となり、開発途上国自身による自立的な教育開発とその自助努力を支援する国際教育協力のあり方について、教育開発に携わる行政官、援助機関関係者、NGO、研究者等が自由かつ率直に意見交換することを目的に、2004年から毎年開催しているものです。

今回、テーマの一つは、「EFA目標達成のための日本の国際教育協力」です。これまで、「EFAダカール行動枠組」の達成に向けては、文部科学省においても、ユネスコ事業を通じた支援や小・中・高等学校の教員ボランティア派遣制度の整備等を行うなど、EFA目標の達成に向けた取組を推進してきたところです。

また、高等教育の分野について述べますと、本日は基調講演者のお一人として、インブガジョモ・ケニヤッタ農工大学学長をお招きしており、これまで、京都大学、岡山大学、鳥取大学などはジョモ・ケニヤッタ農工大学の設立当初から長きにわたり、JICA事業を通じた専門家派遣や研修員受入れ等の協力を行ってきました。日本国内においては「アフリカに大学をつくったサムライたち」として知られています。

我が国の大学・研究機関による人材育成への協力は、開発途上国等から一定の評価をいただいております。そのような日本の教育協力は、本日もうお一人の基調講演者である牟田 東京工業大学名誉教授から総括いただけるものと思います。

また、本日のもう一つのテーマは、「教育2030」目標達成における日本の役割」です。

昨年9月の国連総会において「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択されました。そのうち教育目標「ゴール4」の達成を目指して「教育2030」が採択されました。その内容は、就学前教育から高等教育までを広く対象として、「ESD」も盛り込まれるなど、学びの改善に力を入れるものとなっています。

文部科学省では、本年5月、「教育におけるイノベーション」をテーマとして「G7教育大臣会合」を開催します。地球規模課題へ立ち向かい、平和と繁栄、持続可能な社会の構築を実現していくため、教育はどのような役割を果たすことができるか。また、様々なバックグラウンドを有する人々との共生や協働がより重要となる新しい時代において求められる資

質・能力等はどのようなものであるか。これらについて各国が相互に議論し、ベストプラクティスの共有を図ることとしています。また、開発途上国の学びの向上や職業スキルの習得支援について各国がどのように取り組むべきか等、「教育2030」の目標達成に資する議論についても、日本が主導していきたいと考えております。

また、近年、我が国の教育に対して、開発途上国の首脳等から高い関心や協力の希望をいただいていることから、文部科学省では、4月から、外務省などの関係省庁、JICA及び民間・教育事業者等とも協力して、諸外国のニーズに合う様々な日本型の教育を展開することとしています。新興国、開発途上国からのニーズに対応した教育協力を一層充実させて参ります。

今年2016年は、G7のほか、TICAD・VIや、ASEAN及びAPECなどの教育大臣会合が立て続けに開催される一年となります。文部科学省としては、これらの機会における対話を通じて、更なる持続可能な未来に向けての教育協力・人材育成のスケールアップに取り組む所存です。

本日は、フォーラムにおける講演や議論を通じて各国の知見を共有し、実りある成果が収められるとともに、その成果が教育の質の向上につながることを期待しております。最後に、本フォーラムの実施にあたりご尽力いただいた関係者の皆様に感謝の意を表しますとともに、本日のフォーラムが皆様の今後の活動にとって有意義なものとなりますことを祈念しまして私からのご挨拶とさせていただきます。